

自分だとわからなければ

昼休けいに、はるよさんは友だちとドッジボールをしていました。はるよさんが投げたボールがなつ子さんに当たったように見えたのに、なつ子さんは「当たってないよ」と言うので、言い合いになり、はるよさんはドッジボールをやめて自由ちょうに絵をかくことにしました。

自由ちょうを開いたはるよさんは、絵をかこうと思いました。しかし、気持ちの落ち着かないはるよさんは、「なつ子さんのうそつき!」と書いていました。

その日の夜、はるよさんが家でテレビを見ていたら、自然を守る活動をしていた人が、知らない人からインターネットに「テレビにうつって、自分が有名になろうとしているだけだ。」と書きこまれ、悲しい気持ちになったというニュースがながれました。

書きこみをした人が見つかって「自分が書いたとは分からない」と思っていたし、だれも自分の書きこみなんて読まないと思っていた」と言っていたが、その悪口の書き込みは何万人もの人に広まったそうです。はるよさんの家族は、「本人に会って言えないことをこっそり書きこむなんて、ひどいよね。」と話していました。

はるよさんは、このニュースを見たあと、なぜかなつ子さんの顔がうかんできて、心がもやもやしました。



かんが
【考えてみよう】

① 自由^{じゆう}ちょうに、「なつ子^{なつこ}さんのうそつき!」と書^かいたとき、はるよさんはどんな気持^{きも}ちだと思^{おも}いますか。

② はるよさんはニュースを見^みたあと、どうして心^{こころ}がもやもやしたのでしょうか。

いえ ひと はな あ
【家の人と話し合ってみましょう】

自分^{じぶん}がしたとわからなければ、何^{なに}を言^いったり、書^かいたりしてもよいでしょうか。

★お家の方へ

話し合う際には次ページの「保護者の皆様へ②」を参考にしてください。

先生のサイン